

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	都市計画課
施策No.	23	施策名	都市空間の整備	施策主管課長名	古屋 桂
施策関連課名		政策推進課,管理住宅課			

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A	人口	単位	人
			B			
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	安全・快適な都市空間で生活する。	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	①	街並みや景観は美しいと感じる市民の割合	単位	%
			②	南アルプス市は住みやすい地域だと感じている割合		%
			③			
			④			

成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	①	街並みや景観への市民の評価を示す/街並みや景観が美しいと感じる市民が多いほど、快適な都市空間であるといえるので、成果指標とした。
	②	居住空間としての市民の評価を示す/安全で快適な都市空間が形成されていれば、その中で生活する市民が住みやすい地域だと感じるので、成果指標とした。
	③	
	④	
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	①	市民アンケート『市内の街並みや景観は美しいと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合
	②	市民アンケート『南アルプス市は住みやすい地域だと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合
	③	
	④	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標	A	人口	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
			実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370					
		見込み値											
	B	実績値											
		見込み値											
		実績値											
成果指標	①	街並みや景観は美しいと感じる市民の割合	目標値	53.8	54.6	55.4	56.2	57.0	54.8	55.6	56.4	57.2	58.0
			実績値	55.7	55.6	57.3	45.2	47.0					
	②	南アルプス市は住みやすい地域だと感じている割合	目標値	70.0	70.5	71.0	71.5	72.0	68.8	69.6	70.4	71.2	72.0
			実績値	65.4	70.2	70.6	62.5	61.7					
	③	目標値											
		実績値											
④	目標値												
	実績値												
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)													
①	前期4年間の実績値の推移からは傾向が見えづらいため、平均値を成り行き値とした。H22年度以降、アンケート結果は50%程度で推移しており、H29年度の実績値(57.3%)が過去最高値であったが、H30年度の実績値は大幅に低下しているため、最終年度(R6年度)には過去最高の水準とすることを目指し、目標値を58.0%とした。												
②	前期4年間の実績値の振れ幅が大きく傾向が見えづらいため、平均値を成り行き値とした。前期期間のアンケート結果でH28、H29は70%を超えたが、いずれも前期の目標値(72.0%)に達していないため、後期の目標値を前期の目標値と同じ72.0%に設定した。												
③													
④													

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
景観保全に向けた意識をもつ。 建築物等への景観色の積極的な採用。 積極的な美化活動・景観保全活動への参加(市民、地域)。 土地の適正管理。	景観に関する広義の周知(風景・史跡・色使い等)。 開発申請に対する適切な指導。 屋外広告物に対する適切な指導。

4 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~R3年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
人口減少等の社会問題のため、地域自治会の活力低下により景観保全活動等が出来なくなる懸念がある。 国の施策としては、立地適正化計画を作成し、コンパクトシティを目指す流れが強くなるのでは。	土地利用の方針を明確に示すように議会質問で上がっている。 個別事務事業に関し、身近な公園の整備・修繕要望がアンケートの自由意見に寄せられている。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	28				
関連事業予算額(単位:千円)	150,830				
(予算額の内訳)	国庫支出金	13,000			
	県支出金	131			
	地方債	11,700			
	その他	5,156			
	一般財源	120,843			

(1) 目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		市民アンケート結果からまちづくり指標①では前年度数値より向上したが、計画値との比較では下回っている。 新規に眺望や景観を阻害する案件もなく苦情等はなかったが、特定は難しいが、太陽光パネル、空き家の増加、荒廃農地の増加によるものか。 指標②については、平成30年度をピークに減少傾向にある。指標①の伸び悩みとリンクする部分もあるのか。また、公共施設の統廃合により従前の生活環境に変化があった為、住みやすいと感じる方が減ったとも考えられる。
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		指標①・②ともH30年度実績値から肯定的意見は減少傾向にあるが、H29～R1で中立意見まで含めると、指標①でH29(83.6)H30(78.4)R1(81.8)指標②でH29(89.9)H30(87.2)R1(89.3)と毎年度平均的な値となっていることから、横ばい状態と判断した。 要因としては、人口減少、空き家の増加、荒廃農地増加などの社会問題を抱えているのではないかと。
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		他自治体との成果実績の比較として、令和元年度公表の甲斐市及び韮崎市の市民アンケート結果との比較を行ったが、甲斐市は4択であり中立が無いので中立を含んだ数値として取り扱い、韮崎市、南アルプス市も中立を含んだ値との比較を行った。しかし、設問項目も同一で無いため一概に比較できない面はあると考える。 指標①では甲斐市(62.6)、韮崎市(71.0)、南アルプス市(81.8)であった。 指標②では甲斐市(87.4)、韮崎市(77.6)、南アルプス市(89.3)であった。 数値比較だけでは、両市を上回っているが、設問項目、回答方法などの違いがあるのではほぼ同水準ではないかと考える。

7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
<p>○開発案件等の適切な指導、また、既存施設の維持管理により緑豊かな街並みの保全を図り、わが故郷に誇りと愛着を持ち次世代を担う子供たちに引き継げるような都市空間での生活が出来るようにする。</p> <p>○南アルプスインターチェンジ周辺と、これに繋がる新山梨環状道を沿線については、新交通網を活かした成長産業の集積など、新たな都市機能の構築を目指す。</p>

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R2年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R3年度)の方針

基本事業	今年度(R2)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R3)の方針
1 秩序ある土地利用の推進	(取組)都市計画区域内の用途無指定地域への開発が多く見られるため、開発申請案件の適正な指導。 (課題)人口減少、少子高齢化の進展による、効率的な行政支援の為にコンパクトシティを目指すべく立地適正化計画の推進は必要となるが、用途設定区域のみが対象となるため、旧6地区に核となる施設等が設置され発展してきた経緯では難しさがある。	諸課題はあるが、令和2年度同様に、無指定地域への開発案件について、景観や開発基準に基づいた適正指導を行う。 本市の土地利用に関する計画の策定に取り組む。
2 住みやすい住空間の整備	(取組)安らぎの場である都市公園の長寿命化と適正管理に努めるとともに、美しい街並み景観を保全するため、違法屋外広告物の是正指導など。また、フットパスの開催などにより、市民の景観への意識向上を図る。 (課題)首都圏への若者の流失や高齢化の進展、自治会未加入者などにより、自助、共助の低下による景観保全の担い手不足。	令和2年度同様、安心して安らげる場の維持管理、景観保全の為、違法屋外広告物の是正指導、市民への景観意識向上を行う。
3 拠点都市機能の整備	(取組)南アルプスIC周辺の拠点となる開発に関し、関係各課との連携及び県との調整を行い、開発区域の適正な位置づけを探る。 (課題)今般の新型コロナウイルスの蔓延状況が課題となる。	新型コロナウイルスの影響により全体工程計画が遅れているが、令和2年度同様に粛々と進める。
4		
5		